

この本の使い方（この本で学ぶみなさんへ） まな

- 主に、中上級レベルが対象です。
おも ちゅうじょうきゅう たいじょう
- この本は全部で 11 ユニット（ユニット 1 ～ 10 + オプションユニット）あります。
- ユニットごとに語彙リストがあります。語彙リストはやさしい日本語で説明されています。本文の理解に必要な意味だけを書いています。
ごい
- ユニットによって活動は異なります。
かつどう

〔ユニット 2 の活動例〕

1	話してみよう
2	読んでみよう
3	説明してみよう
4	書いてみよう
5	話し合ってみよう はな あ
6	もっと調べてみよう
	コラム
	語彙リスト

〔ユニット 4 の活動例〕

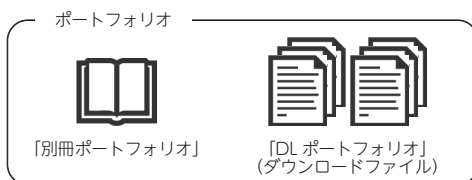
1	話してみよう
2	読んでみよう
3	発表資料を作ってみよう はっぴょう しりょう
4	発表してみよう
5	話し合ってみよう
	コラム
	語彙リスト

- 内容や意味を大切にしています。
ないよう
- 日本に住む人の考えや日本以外のことも学べます。
- ことばを実際に使うことを大切にしています。
じっさい
- 教科書用にかかれたものではなく、一般用の本を読みます。難しいことばもありますが、こわがらずに読みましょう。
いっぱん
- ふりがなは、日本語能力試験（JLPT）N2 程度以上の語（ユニットで初めて出たもの／読み物はそのページで初めて出たもの）についています。
ていど
- もっと知りたいことは自分で調べてみましょう。調べるときには、自分が使える他の言語も活用しましょう。
げんご かつよう
- 別冊のポートフォリオも必ず使いましょう。学習効果も高まり、自分の成長を知ることができます。
がくしゅうこう たか せいちょう
- 自分の意見を言うことが恥ずかしくなくなります。いつのまにか日本語で考えたり、使ったりすることができる自分におどろくはずです。
- いろいろな考えの人と学ぶことの楽しさをぜひ知ってください。
- 学校以外でこの本を使うときは、一緒に学ぶ人を見つけて勉強してみたり、オンラインツールも活用してみたりしましょう。



この本の使い方（教師のみなさまへ）

この本は、主に中上級の学習者を対象としており、全部で 11 ユニット（ユニット 1 ～ 10 + オプションユニット）から構成されています。本冊と毎回の活動に必要なワークシートがまとめられたポートフォリオに分かれています（ポートフォリオの一部は凡人社のウェブサイトからダウンロード可能です）。ポートフォリオは学習者自身の学びの記録になるもので、授業の最後のふり返しにも使います。また、成績をつける際の評価の対象にすることもできます。また、各ユニットの詳細については『教師用指導書』をご参照ください。くわしくは、下記サイトをご覧ください。



◀ 「DL ポートフォリオ」は
こちらから
(凡人社ウェブサイト内
特設サイト)

CLIL では、加工されていない生きた素材を使うことが勧められています。この本で紹介している読み物もできるだけそのままの形で載せています。ただ、学習者にとって見なれない語も多いので、巻末に語彙リストや話すときに便利な表現リストをつけました。語彙リストは、本文の理解に必要な意味だけ、やさしい日本語で書かれています。意味を自分で調べてほしいものについては【🔍 調べてみよう】という印がついています。辞書や翻訳ソフトを使って学習者が最も使いやすい言語で確認させてください。語彙リストの一部は web でダウンロード可能です。また、読み物のすべては掲載できないので、上級学習者には、本書で紹介している書籍をぜひ実際に手に入れて、できるだけ多くの内容に触れるようアドバイスしてください。中級学習者にとって読み物が難しい場合は、教師用指導書に挙げてある他の読み物に差し替えることもできます。また、学習者のレベルに関わらず、関連したホームページや映像を見ることも役に立ちます。

大事なことは、一字一句訳して、理解して覚えることではありません。内容に興味を持ち、自分の持っているもの（すでに持っている知識、日本語力、母語や他の言語の力、IT リテラシーも含まれます）をフルに使って、読み取り、意味を理解し、クリティカルに考え、話し合い、学びを深めることが大切です。意味のやりとりを大切に、日本語の間違いを恐れず、安心して、率直に自分の考えが述べ合えるような教室の雰囲気づくりを心がけてください。必要に応じて日本語に限らず共通に使える言語を使ってもかまいません。CLIL についてもっとくわしく知りたい方は、『日本語教師のための CLIL (内

容言語統合型学習) 入門』(凡人社)をご覧ください。

各ユニットのはじめに、そのユニットの目標が4Cごとに書かれています。4Cを意識しながら、無理なく、テーマについて調べたり、読んだりしながら理解を深め、それをポスターやレジュメ、発表などの方法を通して、クラスの仲間と共有し、話し合い、思考を深めていきます。そのときに、よりよいレジュメとは何か、発表とは何かなど、学習スキルについても考えながら学んでいきます。ときには、学習者同士で意見が異なることもあるでしょう。それは学びを深めるチャンスです。自分の意見との違いについて考えたり、相手を尊重しながら伝え合う機会にしてください。

本書の各ページの右の欄には、その活動に必要なキーワードやポイントが書かれていて、この本のキャラクターであるクリルンが学習者の学びをサポートしてくれます。空いているスペースには学習者自身が新しく学んだことばを書き込むなど、自由に使ってください。

活動の最後では、ポートフォリオを見返して、この本で何を学んだかふり返ります。日本語はもちろん、内容の理解が深まり、批判的に考えられるようになる、当事者として捉えられるようになるなど、それ以外にも多くの点で学習者の成長を感じることができると思います。

筆者たちは、この“PEACE”をテーマとして、7年間ぐらいオンラインを含めさまざまな教育現場で、多くの日本語学習者や日本語を母語とする学生たちと学びながら、この本を作りました。「この本の考え方」でも述べたように、この本は、日本語だけではなく、内容への深い理解、学習スキルの向上も目指しているので、継承語教育や、大学の初年次教育、中高生の国際理解教育などにも応用できると思います。

しかし、私たちは国際協力や、貧困学の専門家ではないので、まだまだわからないこと、知らないこともたくさんあります。また、本の内容と状況も変わってきているかもしれません。是非、学習者のみなさんと一緒に内容をアップデートしたり、目的や興味、レベルに合わせて差し替えるなどして自由にお使いください。

本書は JSPS 科研費 JP18K00691、JP19H01270、
JP18K00711 の助成を受けました。

